

HHS-RKA型

クボタ 棒形開閉台

取扱説明書



本取扱説明書をお読みいただき、内容を理解してから当製品の使用及び保守点検を行ってください。

また、据付・試運転終了後は必ず維持管理者がいつでも見ることができる所に保管してください。



はじめに


このたびは、クボタ“棒形開閉台”をご採用くださりまして、誠にありがとうございます。
ございます。


本書は、お客様にバルブを正しく安全にお使いいただくための取扱いについて説明してあります。

お使いの前に、必ずお読みいただき、お読みになったあとも大切に保管してください。

警告表示

バルブを正しく安全にお使いいただき、事故や危険を未然に防止するために、警告表示を用いています。その表示と意味は次のようになっています。

 **警告** 取扱いを誤ると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合に用いています。

 **注意** 取扱いを誤ると、使用者が傷害を負う可能性が想定される場合、および物的損害の発生が想定される場合に用いています。

取扱説明書について

- ・ 内容についてご不審な点や、お気づきのことがありましたら巻末の窓口へご連絡ください。
- ・ 内容は予告なく変更する場合があります。



■ 正しく安全にご使用いただくために

安全上のご注意

お使いの前に、この「注意事項」をお読みのうえ安全に取扱ってください。

受取り・運搬・保管・据付・試運転時



注意 …… 落下などによる事故防止

- (1) 開閉台の吊りあげ・玉掛けは、質量（重量）を確認のうえ行い、吊荷の下には立ち入らないなど安全には十分注意して作業してください。
- (2) 作業を行うときは、足場の安全を確保し、不安定な場所での行為は避けてください。

これらの注意を怠ると、傷害事故の生ずるおそれがあります。



警告 …… 誤動作による事故防止

- (1) 試運転・作動確認時は、扉体の下には近づかないようにしてください。

これらの注意を怠ると、人身事故（死亡事故）の発生するおそれがあります。

維持管理（保守点検）時



警告 …… 酸欠などによる事故防止

- (1) 弁室や制水扉が設置された渠内に入るときは、必ず酸素濃度、塩素濃度および硫化水素濃度を測定するとともに、有毒ガスに注意してください。また、これらの場所で作業を行うときは、常に換気に気をつけて下さい。
- (2) 塗装作業を行うときは、常に火気および換気に気をつけてください。

これらの注意を怠ると、人身事故（死亡事故）の発生するおそれがあります。



警告 …… 誤操作による事故防止

- (1) 開閉台の点検及び作動確認を行うときは、扉体の下には近づかないようにしてください。

これらの注意を怠ると、人身事故（死亡事故）の発生するおそれがあります。



注意 …… 傷害事故防止

- (1) 作業を行うときは、足場の安全を確保し、不安定な場所での行為は避けてください。
- (2) 開閉台の分解作業は、制水扉本体が全閉であること、または扉体が閉じないように木材等で扉体を支えていることを確認してから行って下さい。
- (3) 開閉台の点検作業は、管理者および他の作業者との連けいをとって行ってください。

これらの注意を怠ると、傷害事故の生ずるおそれがあります。

1. 概 要

棒形手動開閉台には内ネジ式、外ネジ式があります。
制水扉、仕切弁等の手動開閉用として、当社の製造経験をもとに、入念に設計製作したもので、正確でしかも安全な操作ができます。

2. 開閉台の特長

1) 棒形手動開閉台

最も簡単な構造のもので、減速機構はなく手動丸ハンドルでスリーブを直接回転させ小口径の制水扉や弁類に多く使用されています。

3. 据付保守に関する注意事項

1) 内ネジ式の据付

- a. 開閉台取付床面は、弁開閉時のスラスト荷重に充分耐える構造にして下さい。
- b. 基礎ボルト孔、弁棒貫通孔、ピッチを確認の上“下げ振り”“レベルゲージ”を用いて充分な芯出しを行い弁棒鉛直線上に据付けて下さい。
- c. 基礎ボルトは、相手鉄筋に溶接するのを原則とし、当初はスタンドを軽く締め付け、調整用ライナー等で充分な芯出しを行って下さい。芯出し確認後、基礎ボルトの増締めを行い完全に固定して下さい。
- d. 継軸、カップリング、中間軸受の取付調整
(弁中心から開閉台取付床面迄の距離の長短により継軸、カップリングを取付ける時と取付けない時があります)
 1. カップリング、中間軸が複数のあるときは合マークを打刻してありますから、下の方から順次取付けて下さい。
 2. 中間軸受は、型式が各種ありますので、中間軸との組立順序に従い図示寸法位置に取付けて下さい。
- f. 取付が完了したら、再度軸芯を“下げ振り”等で確認し、C項を参照して開閉台の基礎固めを行ってください。

2) 外ネジ式の据付

内ネジ式と異なるところは、下記の通りです。

- a. 開閉台は本体を全閉にした状態で据付けて下さい。(開度計の指針を合わせるのに必要です。)
- b. 開閉台を取付けるときは、開閉台の中に弁棒を入れた状態で据付けた方が便利です。(弁棒を取付けておいて開閉台をあとから入れると開閉台のネジ部を通すのに時間がかかります。)
- c. 開閉台の据付けが完了したら、弁開閉のときカップリング等が途中の中間軸受や開閉台下の軸貫通部に当たらないか寸法を確認して下さい。
- d. 据付後弁棒ネジ部にグリースを充分塗布して下さい。

票
番

H-041115



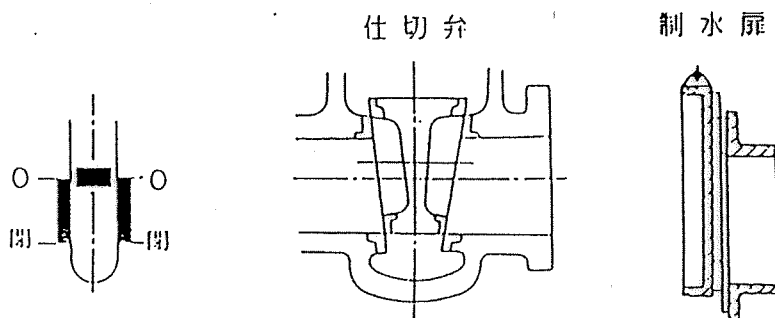
4
/ 5

4. 操作および保守

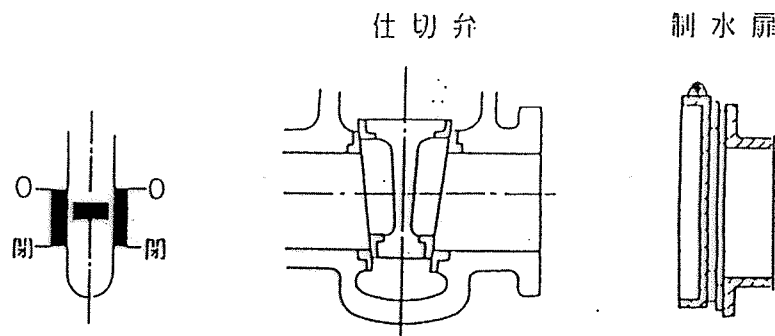
- 1) 開閉の際はハンドルに鑄出している開閉方向と開度計の目盛を確認の上操作して下さい。
- 2) 圧力が低く小口径のものについては、全閉時ハンドルの手ごたえがありませんので、全閉近く及び全開近くではハンドルをゆっくり廻して下さい。
- 3) 全閉位置では特にハンドル操作力に注意し、開度計指針に従い操作して、締めすぎのないようにして下さい。

なお弁体と開度計の0点と閉の関係は下記の通りです。

- a 開度計の指針が0のときは、シート(弁座)が重なり始める点であります。



- b. 開度計の指針が0~閉の中間で水は止まります。(0~閉の1/3~1/2位で止水できるように調整してあります。)



開度計の指針が閉の位置までくると閉まりすぎです。
無理をして閉めますと開かなくなったり、本体あるいは開閉台を破損することがありますので、充分御注意下さい。

- 4) 可動部にはグリースの充填、塗布を定期的に行って下さい。
- 5) 使用頻度の少ないものは、定期的の開閉運転を行い、開閉台及び本体の作動を確認し、緊急時に備えてください。